

股の高さの推定に関する2,3の試み

十文字学園女短大 古松 弥生 大妻女大家政 松山 容子
 関東学院女短大 岡田 宣子 大妻女大家政○深田 順子

目的 股の高さは、スラックス等の設計において欠かせない項目であるが、計測には種々の困難性が伴うため、計測しやすい他の項目を用いて股の高さを推定することが望まれる。そこで、これに関し2,3の検討を試みた。

方法 回帰推定の説明変数としては、身長、胴高、腸骨棘高、膝高の4項目をとりあげ各々から股の高さの推定を試み、更にその精度を標準誤差により検討した。資料は16~18歳の男子172名女子166名の身体計測値(1979)である。

結果 まず男女それぞれについて各年令ごとに回帰式を求めた。それぞれの回帰に対して分散分析を行なうと、いずれの説明変数においても回帰性は1%水準で有意である。次に各年令の回帰係数及び回帰定数を比較すると、いずれの説明変数においても5%水準で有意差がみとめられないため、16~18歳を一括して推定を試みた。推定の精度をみると、測定部位が股の高さに対し近似している胴高や腸骨棘高による場合の方が、身長や膝高によるものよりも標準誤差が小さく、推定の精度はやや良いようである。この傾向は男女に共通にみられる。標準誤差を男女で比較すると、いずれの説明変数においても女子の方が男子よりも小さい傾向にあり、推定精度がやや良いようである。